



季刊



弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第15号 (2014年10月)

秋季企画展

「出雲を掘る第五話」

「瓦の歴史」

11月1日(土)～1月12日(月)

【観覧無料】



長者原廃寺の鬼瓦

★関連講演会

12月13日(土) 14時～16時

「中国地方の城郭瓦について(仮)」

【講師】 乗岡 実氏

(岡山市教育委員会文化財課)

定員 80名

★ギャラリートーク

11月3日(月・祝日) 11時～12時

【講師】 安部百合子

(出雲弥生の森博物館)

★体験教室

12月23日(火・祝日)

13時30分～16時

「オリジナル鬼瓦づくり」

定員 20名

※参加費はいずれも無料ですが、講演会および体験教室は事前の申し込みが必要です。電話・FAX・メール等でお申し込みください。

6世紀末に朝鮮半島百濟くだらから伝わった瓦。古代から江戸時代前半にかけては、仏教寺院や役所など特別な建物にだけ、瓦は葺かれていました。民家で使われるようになったのは江戸時代後半になってからでした。

出雲市大津地区では、約300年前(江戸時代中頃)から、瓦(大津瓦)づくりが始まり、40年前に最後の窯元の火が消えるまで地元の経済を担ってきました。

今回は、出雲地方における瓦の歴史をたどります。古代の寺院や役所で使われた瓦、中世・近世の城郭の瓦、大津瓦のルーツとなった松江市の秋鹿瓦、そして、施釉せゆうの代表・石見の石州瓦についても取り上げます。

この機会に、屋根を見上げてみませんか。



逆「へ」の字をした大津瓦

(安部百合子)

★ギャラリートーク

水に祈る! 水を鎮める!

「古代のマツリとマツリゴト」

10月1日(水)～2月2日(月)

「水」が人々に恩恵をもたらした、時として災いをもたらすことは、今も昔も変わりません。古代の人びとにとっても、水に祈りを捧げることは重要な行為であったと考えられます。遺跡を調査すると、水辺でのマツリの跡やその道具が見つかることがあります。

例えば、三田谷I遺跡(上塩冶町)では、「麻奈井」と記した奈良時代の土器が見つかっています。「マナ(麻奈)」とは「井」(湧水)に対する美称で、三田谷の湧き水が神聖視されたことがうかがえます。その湧き水が流れた溝からは、マツリの道具が見つかっています。

一方、三田谷はマツリの場合だけでなく、役所に関わる施設があったことも分かっています。つまり、水をマツリによって治める行為は、地域の政治(マツリゴト)とも密接なものであったと言えるのです。

今回の展示では、そうした遺跡の数々を紹介いたします。(高橋 周)

◆来館者20万人を達成!

平成22年4月に開館して以来、当館は、



地元の皆さまに可愛がられる博物館を目指して努力してまいりました。

みなさまのおかげで、7月19日、来館者20万人を達成することができました。20万人目のお客様は、上塩冶町からお越しの池田英夫様と姪御さんの木原柚歌ちゃん、風歌ちゃん姉妹でした。今後も、歴史文化のまち「出雲」を発信する交流拠点の一つとして、魅力ある展示、様々な講座・教室などを通して、古代出雲の魅力を皆さまにお伝えしてまいります。

これからも出雲弥生の森博物館をご愛顧いただきますようお願いいたします。



来館者20万人達成のようす

★小・中学校社会科部会視察研修

8月1日と4日に中学校と小学校の社会科部会の先生方が夏季研修として、市内の史跡などを見学されました。



仏像に囲まれて説明を聞く

出雲を代表する「今市大念寺古墳」や「国富中村古墳」、重要文化財の仏像が9体も安置されている「大寺薬師」などを見学され、それぞれ専門の職員が説明をしました。

また、小学校部会の一部の先生には、バラバラに出土した土器のかけらを接ぎ合わせる作業や瓦の拓本など博物館で行っている業務の体験もしてもらいました。



土器接合のようす

博物館では、今後も様々な機会を通じて古代出雲の魅力を発信していきます。

(福岡淳子)

★発掘調査速報展

開催中 12月1日(月)

「越堂たたら跡 発掘調査速報展」

市文化財課では現在、国史跡田儀櫻井家たたら製鉄遺跡の調査を実施しており、平成25年度(2013)から越堂たたら跡の発掘調査を行っています。

今回の速報展では、平成25年度の調査成果を写真とパネルを中心に展示しています。ここではその展示内容を簡単に紹介します。

越堂たたらは、田儀櫻井家によって江戸時代から明治時代にかけて長期間経営されました。出雲市多伎町口田儀に所在し、海辺の近くに立地しているため、製鉄に必要な砂鉄や木炭の調達から製品の搬出まで、海運を利用する方法をとっていたと考えられます。



速報展示のようす



越堂たたら跡の調査区全景(南より)

平成25年度(2013)の調査では、前回の調査で本床と小舟の一部が確認できた場所から北側に調査区を設定しました。これまでの発掘調査で、本床の北側の広がりや、小舟の内部を確認しました。

後世の造成などによって一部が壊されていますが、比較的よく残存しており、たたら地下構造を詳しく知ることが出来ます。

発掘調査は平成26年度(2014)も引き続き継続しており、その調査成果についてもご期待ください。

(幡中光輔)

★指定文化財紹介①
市指定文化財(建造物)

昭和35年12月21日指定

「山田本陣遺構」



山田本陣

山田家は、江戸時代前期に現在の
の大津町に移り
住み、商売が成功
し、大きな屋敷を構えたと伝えら
れています。

本陣とは、松江藩主が大社参詣
や領内の視察等出かけられた時
に、途中で宿泊や休憩をされたお
屋敷です。大きな商家や庄屋の家
があてがわれました。

山田家住宅(本陣遺構)には、
大きな切妻の主屋の西に、棟を
一段下げて増築された部分があ
り、そこが本陣として使われた所
になります。七代藩主松平治郷(不
味)の時に増築され、藩主が入る

「御成座敷」と家来らが控える「次
の間」、藩主専用の湯殿(風呂場)、
雪隠(便所)などから構成されて
います。御成座敷には床の間、違
棚、付書院があり、お殿様の部屋に
ふさわしい格式を備えています。

平成15年に傷みが激しくなった
部分を修理するとともに、屋根を
こけら葺という元々の形に戻しま
した。

今秋、数少ない本陣遺構を皆様
に見ていただくため、7年ぶりに
一般公開を行うこととしました。
ぜひご来場ください。

○日時 平成26年11月3日(月祝)

9時30分～11時30分

(雨天決行)

○場所 山田本陣

(大津町570番地)

※駐車場は、大津コミュニティセ
ンター東側駐車場をご利用くだ
さい。(徒歩5分)

(野坂俊之)



御成座敷

★出雲斐川中央工業団地の
発掘調査終了!

市文化財課では、平成24年度
(2012)から出雲斐川中央工業
団地予定地の造成に伴う杉沢遺
跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群の
発掘調査を実施してきました。こ
の度、約2年半に及んだ調査がす
べて終了しました。

平成25年度(2013)までの調
査で、遺跡が広がる丘陵地に、弥
生時代中期(約2000年前)の集
落跡、古墳時代後期(約1400
年前)の横穴墓群、さらに奈良時
代前半(約1300年前)の「山陰
道」の一部と考えられる道路遺構
を発見しました。

平成26年度(2014)は、杉沢
遺跡の一丘陵を調査し、弥生時代
中期の集落跡がさらに広がること
を確認しました。遺跡からは、堅
穴住居跡や掘立柱建物跡、丘陵斜
面を人工的に切り盛りして造成し
た加工段(建物などを建てるため
の平坦面)も数多く見つかってい
ます。このほか、丘陵の尾根上に太
平洋戦争末期のタコ壺(個人用の
塹壕)が掘られていました。戦時中
の様子を伺える貴重な資料です。

最後に、発掘調査の成果ベスト
5を挙げてみたいと思います。

- ①道幅9m! 古代山陰道の一部を
発見
- ②県内最古のガラス玉、堅穴住居
跡から出土
- ③横穴墓に追葬されたのは古代の
役人? 硯として使われた須恵器
出土
- ④短い期間に営まれた弥生時代の
集落
- ⑤太平洋戦争末期のタコ壺発見

今後は、これらの成果をまとめ
た発掘調査報告書作成が始まりま
す。その過程で、さらに新たな発
見があるかもしれません。最新の
成果は、速報展などを通してお伝
えしていきます。(奥原このみ)



杉沢遺跡平成26年度
調査区全景(東から)

★館長講座
考古学はややこしや!

第2回 11月15日(土)

「前方後方墳と前方後円墳」

第3回 1月17日(土)

「神話と考古学」

右の講座はいずれも

【講師】 渡邊貞幸(当館館長)

●時間 14時～16時

●受講料 300円

●定員 80名

●お申し込みは、博物館まで。

ホームページからインターネット

でも受け付けています。

◆第49回出雲市無形文化財発表会

●日時 平成26年11月30日(日)

午前10時から午後4時

●場所 大社文化プレイスうらら館

●入場料 当日500円

(前売り400円) *中学生以下無料

※当館で前売券購入できます。



大土地神楽



赤塚神楽

★史跡公園「出雲弥生の森」
樹木だより

今年は何年になく雨の多い夏で

した。9月に入り、秋の気配が史跡公園にも訪れ初めました。豊かな実りを迎える季節です。5月の弥生の森まつりのフリーブロー

(吹き矢)で使われるマテバシイたちも実りだしました。

●樹木名 「クヌギ・欐、桐、椴」

落葉高木。花は小さく4・5月頃に咲き、黄色い10cmほどの房状に垂れる。実は翌年の秋に熟す。シイタケ栽培の原木として利用される。

●樹木名 「ネズミモチ・鼠麴」

照葉樹林。高さ数mになる大型の低木。よく横枝を出して、かたまり状の形になる。花は6月頃白い小さな花をつける。名前は実の色や形がネズミの糞のようで、葉がモチノキに似ていることによる。

●別名 カワツバキ、タマツバキ

●マツバキ



★館長コラム⑩



四隅突出型墳丘墓

いかにも取っ付きにくい熟語で、舌をかみそうですね。

もつと分かりやすい言い回しはないものか、ずっと考えてきました。「糸巻き形」「ヒトデ形」「アメーバ形」などと言う人もいますが、どう考えても不適切で賛同できません。「コアラのマーチ形」は妙案だと思えますが、惜しいことにほんの少し形が違います。

鳥根大学が西谷墳墓群の発掘をしていたとき、宿舎のお寺でコタツにあたっていた私は、ふと、四隅突出型墳丘墓はコタツに布団を掛けた形に似ている!とひらめきました。西谷3号墓のような大型墳丘墓の外形は、まさに「コタツ形」です。でも、初期の小さな四隅突出型墳丘墓は「コタツ形」とは言えないのが難点です。

ところで、オセアニアの各地に伝わるあやとり、四隅突出型墳丘墓の形を思わせるようなものがあります。私はそれを勝手に「あやとり四隅突出型墳丘墓」と名付け、作り方を大学のホームページ

で紹介したことがあります。これが何と、「国際あやとり協会」の方の目に留まり、同協会のホームページで褒めていただきました。

写真は、このあやとりを図案にした切手です。四隅突出型墳丘墓に見えませんか?



(渡邊貞幸)

(発行)出雲弥生の森博物館 2014年10月

〒693-0011 島根県出雲市大津町2760

(TEL)0853-25-1841 (FAX)0853-21-6617

(e-mail)yayoi@city.izumo.shimane.jp

http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料 / 無料

●開館時間 / 9:00 ~ 17:00 (入館 16:30 まで)

●休館日 / 火曜日 (祝日の場合は翌日)・年末年始